



## 説教要旨 「荒れ野で叫ぶ声として」

ヨハネによる福音書1章19～28節

洗礼者ヨハネは、エルサレムからやってきた祭司やレビ人たちの「あなたはどなたですか」という質問に答える形で、自分が何者であるのかを自己証言します。「わたしは荒れ野で叫ぶ声である。『主の道をまっすぐにせよ』と」(23節)。彼は、自身のことを主体性のない声にすぎないというのです。

洗礼者ヨハネが授けていたのは、悔い改めのしるしとしての洗礼ですが、その洗礼を受けるという事は、ヨハネの弟子となることとほぼ同義でした。ヨハネは日中だけ荒れ野に出て行って活動し、夜になったら町に戻るといった生活をしていただけでなく、荒れ野で集団を作って生活をしていたのです。そして、ヨハネから洗礼を受けるということは、その荒れ野で生活する集団に加わることを意味します。

ヨハネ福音書では、洗礼者ヨハネがイエス様に洗礼を授けるという描写はありませんが、ほかの三福音書はこぞって、イエス様が洗礼者ヨハネから洗礼を受けたことを書き記しています。このことはイエス様が洗礼者ヨハネの弟子として、洗礼者ヨハネとその共同体と共に俗世から離れて荒れ野で生活していたであろうことを示しています。

イエス様は洗礼者ヨハネよりも、後からこられた。しかも洗礼者ヨハネの弟子として一時はその共同体に身を置いていたのかもしれませんが。しかしイエス様の活動は洗礼者ヨハネの二番煎じではありません。洗礼者ヨハネは、悔い改めを人々に叫び、荒れ野で清い生活をしていました。それは自分たちの中へと人々を導き、そこに神の国を作ろうという歩みです。しかしイエス様は、自ら人々の中へと入って行かれ、その人々の生きている場所で神の国を示された。洗礼者ヨハネが、神の国に人々を引き入れて、ふくらませようとしたのに対し、イエス様はすでにあるこの世界が、神の国、神の支配のもとにあることに人々の目を向けさせようとしたのです。まさしく洗礼者ヨハネが「わたしよりも後から来られる方は、わたしよりも優れている。わたしよりも先におられたからである」(30節)と言って、指し示したその方が、私たちの主、イエス・キリストであるのです。

(2019・12・15 説教者：稲垣真実)